

評価結果に対する普及指導計画（活動）の改善方向

普及活動外部評価委員の皆様におかれましては、現地調査から評価委員会まで時間をかけて評価をしていただき、誠にありがとうございました。

外部評価委員の皆様からのご意見を踏まえ、本年度及び平成31年度以降の普及指導活動の体制や方法、また、外部評価の実施方法等について改善に努めてまいります。

主な評価結果と改善方向は次のとおりです。

項目	評価結果	今後の改善方向
普及指導活動の体制	<p>○所内で役割分担をしっかりと行い、チーム会など定期的な進捗管理により、多くの課題に対応している。全体的に普及指導員の人員が少ないと感じる。</p> <p>○若い職員が増えており、OJT研修や職場研修等により資質向上に取り組まれている。今後、人間関係をうまく作っていくうえでも、世代の違う対象者とのコミュニケーション力が必要。</p>	<p>○今後、大量退職による世代交代が急激にすすむことから、トレーナーとなる人材の育成が重要となっている。そこで、新任者と年齢の近い普及指導員をトレーナーとすることで、トレーナーとトレーニー双方の育成を図る。OJTチーム会でチェックシートを活用した面談を行うなど、トレーナーだけでなくチーム全体で人材育成に取り組んでいく。</p>
普及指導活動の計画	<p>○先進技術の普及だけでなく、情報の少ない農家などにも寄り添ってほしい。農家に合った指導を忘れずに対応してほしい。</p> <p>○評価指標の目標値に母数が示されていないため、目標や活動が適正なのか判断できない。</p>	<p>定期的な現地指導を組むことで「課題の気づき」ができ、地域に必要な普及活動に取り組んでいく。</p> <p>○普及活動成果を正しく評価できるように、評価指標の数や内容を改善していく。目標が適正かどうか判断できるように、根拠となる分母の数値を記載する。</p>

項目	評価結果	今後の改善方向
普及指導活動の成果	<p>○丹念に現場へ出向いて、人間関係を作ってから指導ができています</p> <p>○普及指導活動を主にして、普及指導員だからこそできた仕事であることを伝えてほしい。次年度の課題へのつながりが見えにくい。P D C Aに沿った発表を工夫する。</p>	<p>○P D C Aサイクルを意識した活動になるよう、重点課題や総合課題だけでなく個別課題についても、普及計画ヒアリングや普及活動中間検討会などを通して内部評価を実施していく</p>
外部評価会に対する意見	<p>○現地調査は、対象者や関係機関から直接話を聞くことができる。現地調査においても普及が対象にいかに関わっているのか説明すること。</p> <p>○課題に偏りがあるので、バランスをとり選定すること。</p> <p>○事前資料には、目標に対して普及がどう関わったのか。農家の考えを変えた普及方法など成功、失敗事例を書く。</p> <p>○成果発表会ではない。普及の役割や重要性が伝わるように普及活動のプロセスを説明すること。</p>	<p>○現地調査は引き続き実施する。</p> <p>○評価対象所属との調整を十分に行い、課題選定、資料作成を行う。</p> <p>○普及活動のプロセスを重視した発表となるように努める。必要であれば資料作成などの研修を行う。</p> <p>人材育成の観点から外部評価会の事例発表を若手普及指導員に担当させることを検討していく。</p>
その他	<p>○タブレット端末の活用することは良いことだが、その結果をどのようにつなげていくのが課題。情報共有するなどできるところから実施する。</p>	<p>○タブレット端末の活用促進を図るため、平成30年度に普及指導員自らが企画した研修を実施している。専門家を講師に招へいしタブレットの活用の可能性を研修している。次年度から専門家のアドバイスを実践するため、新任期の職員を中心に、常時タブレット端末を携行し、現場活動で効果的に活用していく。</p>